

10月放送総局長定例記者会見要旨

(1) 「麒麟がくる」最終回と「青天を衝け」初回放送について (正籙放送総局長)

まず始めに、大河ドラマ「麒麟がくる」の最終回の放送日、また次期大河ドラマ「青天を衝け」の初回放送日についてお知らせする。

現在放送中の「麒麟がくる」は、来年、2021年2月7日が最終回となる。そして、その翌週の2月14日から、「青天を衝け」の放送がスタートする。なお、「青天を衝け」の放送回数については、現段階では確定していない。「麒麟がくる」は、「京・伏魔殿編」となった。いよいよ、光秀が歴史の表舞台で活躍する。ぜひ、楽しみにしていただきたい。

(詳細は報道資料を参照)

(2) 第2世代音声合成システムについて (正籙放送総局長)

NHKの放送技術研究所などが独自に開発した技術について、ご紹介する。

人が話しているような音声を生成する「音声合成システム」の第2世代のバージョンが完成し、実際の放送で活用することになった。「第2世代音声合成システム」を使用するのは、BS1で11月7日にスタートする新番組「週刊ワールドニュース」の冒頭のVTR部分。これに先行して、先週土曜日の「ワールドニュース特集」で、初めて使用した。これは、ニュースシブ5時などで活用している「ニュースのヨミ子」の第1世代の音声合成システムを発展させたもの。最大の特徴は、AIを活用して、より自然な「声」を、簡単な操作で、短時間に生成できる音声合成技術を開発したことだ。今後、NHKのさまざまなサービスで活用していきたいと考えている。

(詳細は報道資料を参照)

(3) “こもりびと”プロジェクト (正籙放送総局長)

11月、是非ご覧いただきたいプロジェクトについてご説明する。

テーマは、「ひきこもり」。その数100万人以上と推計されている。かつては、若者特有とされてきたが、今では「中高年のひきこもり」が61万人に上ると見られ、世代を問わず、多くの人にとって身近な問題となっている。プロジェクトでは、イメージのついた「ひきこもり」ではなく、「こもりびと」という言葉を使い、先入観なく「ひきこもり」について考える機会を提供する。

まず、NHKスペシャルでは、2週にわたり、「8050問題」と言われる中高年のひきこもりについて、ドラマとドキュメンタリーを放送する。

ドラマ「こもりびと」では、松山ケンイチさんが10年以上にわたって自宅に引きこもる息子を、また武田鉄矢さんが、自らの余命宣告を機にもう一度息子と向き合うことになる父親を演じる。

また、ドキュメンタリー「“ひきこもり死”限界家族の記録」では、親の介護や退職など、さまざまな事情で社会とのつながりを失い、「死」まで追い込まれる人々の現実を長期取材で伝え、どうすれば命を守ることができるのか、解決への道を探る。

一方、Eテレの「ウワサの保護者会」などでは、子どものひきこもりや不登校の問題について取り上げる。

また、ラジオ特番「みんなでひきこもりラジオ」では、ひきこもる人たちの声に耳を傾ける。

これら、あわせて13の番組を放送するとともに、ホームページ「#こもりびと」では、番組の内容を記事としてお読みいただけるほか、本人や家族の体験談についても掲載することになっている。

(詳細は報道資料を参照)

(4) NHKスペシャル

「世界最強の頭脳×全論文AI解説 ～新型コロナ 感染再爆発か収束か」 (小池副総局長)

新型コロナウイルスの今後を予測する、NHKスペシャルについて紹介する。

「ウイルスの感染力が最大化する」と警戒してきた冬場が到来する。感染再拡大が起きるのか、それとも収束するのか？欧米に比べ、日本の死者数が少ない本当の理由は何か？ワクチンや治療薬は、どこまで期待できるのか？人工知能AIと、えりすぐりの科学者集団がタッグを組んだ、“世界最強の頭脳”が、今こそ知りたい疑問に答えていく。視聴者代表として出演するのは、爆笑問題の2人。

(詳細は報道資料を参照)

(5) アメリカ大統領選挙関連 (小池副総局長)

「アメリカ大統領選挙」の関連番組について。

11月1日のNHKスペシャルでは、「アメリカ大統領選 分断の行方」を放送する。トランプ大統領の4年間で社会の分断が進んだ深刻な現状を、激戦州の一つ、ミシガン州で見ていく。アメリカで、今何が起きているのか、その深層に迫る。

BS1では、2つの「BS1スペシャル」を放送する。

庶民の本音を聞く「ザ・リアル・ボイス」では、大衆食堂に集う人々の声に耳を傾ける。「新大統領に期待すること」「コロナと生きる未来」などをテーマに、資料の写真にある、リモート操作できる“ディレクター分身ロボット”を使い、インタビューを行った。

もう1つの番組、「市民が見たアメリカ大統領選挙」では、1980年代から2000年代初頭に生まれた「ミレニアル世代」の若者に注目する。有権者のおよそ4割を占め、リベラル志向と言われているが、一方で、トランプ大統領を支持する保守系の若者も声を上げ始めている。その暮らしぶりや抱える問題を、スマートフォンなどで日々記録してもらい、若者がどのような選択をするのかを伝える。

また、選挙当日となる日本時間の4日、開票速報を、総合テレビで定時ニュースを拡大するなどしてお伝えするほか、BS1やホームページの特設サイトなどでもお伝えする予定だ。

(詳細は報道資料を参照)

(6) 「カラフルな魔女の物語～角野栄子 85歳の鎌倉暮らし」 (若泉副総局長)

Eテレで2週にわたって放送する特集番組を紹介する。

コロナ禍で外出もままならない中でも、それを逆手に楽しみに変えてしまう、軽やかな暮らしぶりを、番組のために書き下していただいたエッセーとともにお伝えする。11月22日と29日に放送する。

(詳細は報道資料を参照)

(7) 「魔改造の夜2」 (若泉副総局長)

BSプレミアムで放送する、一流のエンジニアが、アイデアとテクニックを競い合う技術開発エンターテインメント番組。「魔改造」とは、“子どものおもちゃ”や“日頃使う家電”をハイレベルの性能やパワーに改造すること。番組第1弾は6月に放送、好評を受けての第2弾だ。

今回は、ロボット開発会社、精密加工の町工場、自動車やバイクを手がける大手メーカーが対決する。テーマは2つ。「お掃除ロボットを魔改造し、走り幅跳びでどれだけ遠くに飛べるか」、そして「太鼓をたたくクマのおもちゃを魔改造し、瓦割りで何枚割れるか」。日本のものづくりを担うエンジニアが本気を出すと、どんな世界を見せてくれるのか、たっぷりお届けする。

(詳細は報道資料を参照)